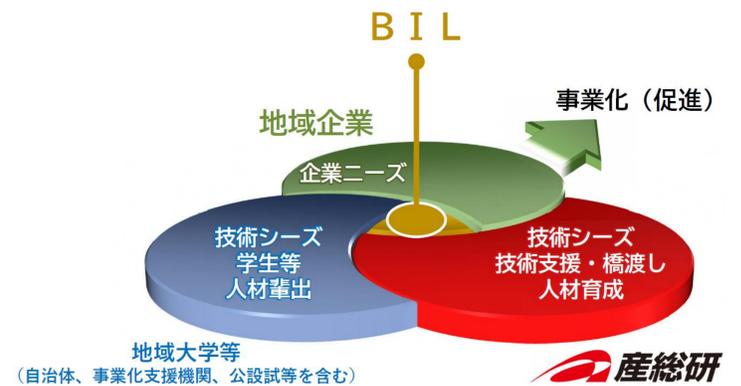


有機廃棄物を含む生物資源の資源循環で地域経済活性化に貢献

- ▶ 成果の橋渡しと人材育成を通じて地域経済に貢献する新しい取り組み
- ▶ 長岡市役所・長岡技術科学大学・産総研による連携活動
- ▶ 長岡に特徴的な“未活用資源”を高付加価値する技術開発

ブリッジイノベーションラボラトリ (B I L) とは

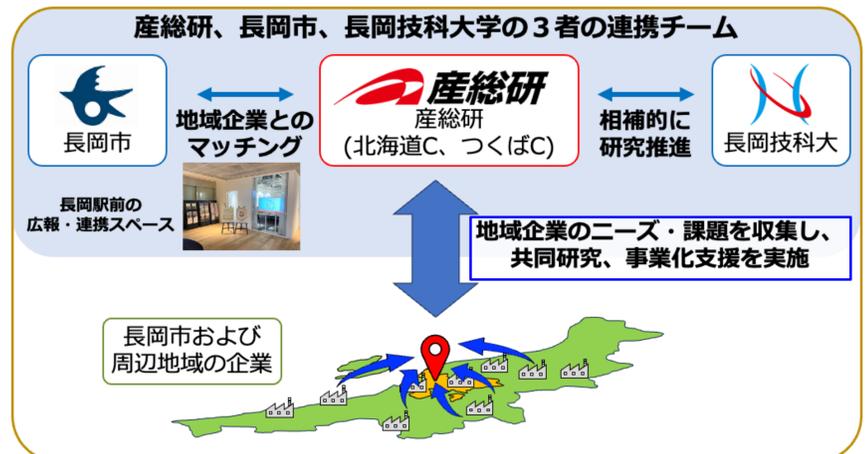
BILは企業ニーズを核として、地域大学（自治体、事業化支援機関、公設試等が参画する場合を含む）と産総研が持つ研究シーズを用いた共同研究を実施する場として整備した連携体制です。成果の橋渡しと人材育成を通じて、地域企業の事業化を支援し、地域経済活性化を目指します。これまでに4件*のBILが設置されており、長岡・産総研 生物資源循環BIL(2023年11月設置)は全国で2件目、自治体が参画する体制としては全国で初めての取り組みです。



長岡・産総研生物資源循環 B I L の連携体制

長岡・産総研 生物資源循環BILでは、長岡市役所・長岡技術科学大学との三者の連携チームで、長岡市および周辺地域を拠点とする地域企業のニーズや課題を収集して共同研究、事業化支援を実施します。地域振興はもとより、開発技術を全国に波及させていくことがBILの大きな目標です。

広報・連携活動には長岡駅前に整備された産学振興拠点“ミライ工長岡”を活用しており、また研究開発は産総研 北海道センター・つくばセンターと長岡技科大の各拠点で推進しています。



長岡・産総研生物資源循環 B I L の研究対象・テーマ

長岡は全国屈指のコメどころであり、またコメを原料とする加工食品で高いブランド力を誇ります。加えて、自治体としては全国最大規模の生ゴミバイオガス発電の施設を運用していることでも知られています。これらの地域の特長を生かして、コメの加工で生じる残渣（酒粕、高濃度洗米水など）やバイオガス発電の発酵残渣の価値を高めて活用する技術開発を開始しています。

上記の3テーマにとどまらず、地域のニーズを取り込んで研究対象・テーマを拡大して活動しています。

